

【ATC フィロソフィ⑳】

こんにちは、アークテックコム(株)で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail :

m.toyohara@arctecom.jp

人生にはフィロソフィが必要

今年も Cost Push Inflation が続きそうですね。お米の値段も高止まりの状況です。そのような経済環境下でも、ブレない生き方を実行するには、フィロソフィが必要だと思います。

弊社のフィロソフィの続きです。

真面目に一生懸命仕事に打ち込む

一生懸命に働くということは、勤勉であるということであり、仕事に対する態度が常に誠実であるということです。

私たちが本当に心から味わえる喜びや幸せというのは、仕事を通して得られるものです。他人に喜びを運べる人は、それによって自分自身の喜びと満足を得ることができません。

真面目に一生懸命仕事に打ち込み、何かを成し遂げ、他人に喜びをもた

らすことが出来たときこそ、他には代えがたい喜びが得られるのです。

お釈迦様が説く精進は、喜びの因作り

お釈迦様の説く六波羅蜜では、まず布施、持戒、精進、忍辱、禅定、智慧の順になります。仏教で悟りを開くということは、智慧に至ることです。

心を高め、人間性を向上させ、心を純粹にするということと同義です。つまり、人間性が高まっていく、心が美しくなっていく、その最終、最高のレベルを「悟りの境地」というわけです。その悟りを開くための方法のひとつとして、お釈迦様は「精進」ということを言われています。悟りを開くためには、この精進をしなければならぬと言っておられるのです。

精進するということは、真面目に一生懸命に働くということです。この、真面目に一生懸命に働くという

ことでその結果として、他人に喜びを運び、さらに報酬が得られるばかりではなく、その人の人間性が向上し、考え方や人格も高め、心を純粹にするという第二の効果も得られるのです。

例えば禅宗では、お寺の雲水は食事の用意から庭掃除、お堂の掃除等のあらゆる作業をします。それらの作業はそれぞれが修行であるとして、禅宗では重きを置いているのです。それは、真面目に一生懸命に仕事に打ち込むことが、禅定、つまり座禅を組んで精神統一を図り、精神を高揚させていくことと同じだという考えに基づいているからです。

表も裏も無い、見返りを期待しない、純粹な心で、他人に喜びをもたらす行動を一生懸命に行うことで、自身も喜びと満足を共有できます。

弊社が、お釈迦様の考え方を活用する理由は、素晴らしい人生を送るには、純粹で高尚な心で考えた、フ

イロソフィが不可欠と思うからです。

人生の豊かさは仕事に打ち込む中で生まれる

人生の豊かさ、幸福とは、快適に安心して平和に、喜びに満ち足りて生きていくことです。その為には、他人に喜びを運び、自身も心が喜びと満足を得ていないといけません。

世の中、すべての職業において、名人、達人と言われる人がいます。そう呼ばれるような人は、生涯を通じ、真面目に一生懸命仕事に打ち込んできたからこそ、その領域にまで至ったわけです。ただ少くく努力をしましたという程度では、そこまでなれるわけがありません。

つまり、名人、達人とは、仕事ができるだけではなく、その人の心、精神状態が非常に崇高なところまで高まって、お釈迦様の説かれる「悟り」に近づいている人たちなのです。良いものがつくれるというだけでは、持っている技能が高いと言うことはできても、名人とまでは言えません。技能もちろん優れているが、その人が持つ心の状態がその作品にも反映し、人を感動させ、喜びを与えるような素晴らしいものをつくる。

そして、自分自身も喜びを共有し満足を得る。それが、名人、達人です。それはまさに、真面目に一生懸命仕事に打ち込んでいなければつukれないものなのです。

「仕事だけが人生ではない。趣味や娯楽も必要だ」と言う人がいます。しかし、それは、本業である仕事で喜びや満足を得られない人が、その代替として、趣味などに自分の喜びを見出そうとしていると思えます。

本業に真面目に、真剣に打ち込むことによって、その本業に喜びを見出してこそ、プロとして仕事が全うできるのです。

真の人格形成は、日々の精進による

まず、人格とはいかに形成されていくのか、そしてどのように向上させていくことができるのかを考えてみましょう。人格とは多くの知識を詰め込むことではなく、毎日一生懸命に働くことで向上させることができますと考えます。つまり、生活の糧を得ることができただけではなく、人格をも高めることもできると考えられるのです。真面目に素直な美しい心で一生懸命仕事に打ち込むこと、それは自分の人格、自分の人生をつくり上げるためにもたい

へん重要なことです。

ここでリーダーの人格に関して、面白いお話があります。アメリカ戦略国際問題研究所（CSIS）でのお話です。

人間社会にはいろいろな集団があり、小はコミュニティ、学術団体、ボランティアグループのようなものから、大は国家と呼ばれるような数億人規模のものまであります。そこには、その集団を引っ張っていく中心的な人物、つまりリーダーと呼ばれる人がいます。

歴史を見てみると、リーダーによってある集団は大きな発展を遂げ、ある集団は悲劇的な運命をたどることが起こっています。私たちの運命というものは、その属している集団のリーダーによって左右されると言っても過言ではないのです。

そのリーダーの資質について、中国の明代の著名な思想家の呂新吾は、政治のあり方を説いた著書『呻吟語』の中で、「深沈厚重ナルハ是レ第一等ノ資質」と述べています。つまり、リーダーとして最も大切な資質とは、常に深く物事を考える重厚な性格を持つ人格者と言っています。

さらに呂新吾は、同じ

『呻吟語』の中で、「聡明才弁ナルハ是レ第三等ノ資質」と述べています。つまり、頭が良くて才能があり、弁舌が立つことは、三番目の資質である。つまり、聡明才弁の人をリーダーに選ぶことが、洋の東西を問わず、広く行われています。確かにこのような人材は能吏として役に立つことは間違いありません。しかし、彼らが果たして立派なリーダーとしての人格を備えているかどうかは疑問だと思えます。

今の世界の多くの社会が荒廃している原因は、このように第三番目の資質しかもっていない人材をリーダーとして登用しているからだと思えます。ですから、より良い社会を築いていくためには、呂新吾が述べているように第一等の資質を持った人、つまり、立派な人格者をリーダーにしていかなければなりません。

ところが、その人格というものは先天的なものでも、永遠不変なものでもありません。人格とは、時と共に変化していくのです。生来、立派な人格を持った人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。しかし、たとえ立派な人格を持って生まれてきた人でも、一生

を通じてその優れた人格を持ち続けた例は稀有なことです。それは、人格というものはその人を取りまく環境により、時々刻々、良い方向にも悪い方向にも変化していくものだからです。

例えば、努力家で謙虚であった人が、ある時に権力の座に就くと、人が変わったように傲慢になってしまい、晩節を汚すケースがよくあります。一方、前半生に世を拗ねて渡り、反社会的な生き方をしてきた人が、あることをきっかけに心を入れ替え、苦勞を重ね、辛酸をなめながら、晩年にはすばらしい人格者になった例もあります。このように人格が変化していくものであるならば、リーダーを選ぶ基準というものは、その時点での人格だけでは判断できないことにもなります。

そうであれば、私たちはリーダーをどのようにして選んでいけばいいのでしょうか。それにはまず、人格とはいかに形成されていくのか、そしてどのように向上させていくことができるのかを考えることが必要です。

人格とは多くの知識を詰め込むことではなく、日々の仕事を通じて向上させることができると思われま

す。つまり、一生懸命に働くことにより、生活の糧を得ることができるだけでなく、人格を高めることもできると考えます。

若いときから苦勞に苦勞を重ね、真面目に一生懸命に働くことによって作り上げた人格というものは、晩年になってもそう簡単に変わってしまうものではありません。そのようなプロセスを経て作り上げた人格者、そういう人をリーダーに選ぶべきなのです。

※2025年02月号に続きます。

応援メッセージです。

感謝のことばを頂く

本心から感謝をすることの大切さは、分かっていますが、「ありがとう」を無意識に言えるように成っても、実は、「ありがとう」と言ってもらえて、感謝されることは、中々ありませんよね。

さて、どうすれば「ありがとう」を言ってもらえるのでしょうか。一日に何度も言ってもらえるようにするにはどうすれば良いのでしょうか。

「ありがとう」と言わせるのか、言ってもらうの

か、言っていたのか。悩ましい所です。

これには私達の心のあり方が関わってきます。人間が紡ぎ出す表も裏も無い心、そして見返りを求めない心、この純粋な心で、誰かのことを思い行動する気持ちが必要なのです。

相手に気付かれないように、自然発生的に行動する。例えば、左利きの人にお食事を出す場合、箸をそっと左向きに置く。

これ、実は「おもてなし」の心なのです。CS向上には絶対に欠かせない考え方なのです。

このように、相手に小さな感動と喜びを運ぶ、それによって、相手から「ありがとう」と感謝されれば、自分自身も喜びと満足を得ることができます。そして、相手との信頼関係も構築されます。「おもてなし」は大切ですね。

もうひとつあるのが、「サービス」です。「サービス」とは、相手に気付いてもらうことを前提にした気配りと言えます。しかし、気づいてもらいたい気持ちが前面に出ると、有難迷惑に感じられることがあります。ここが少し難しいですが、相手がサービスに心から満足し、自然に笑顔

がこぼれた瞬間、自分達の心も豊かになります。笑顔の連鎖、感謝の連鎖を作るのがサービスだと思います。

豊原 信